

2021年7月30日

ガラス産業連合会
会長 山村幸治

祝 辞

この度、2022年を「国際ガラス年」として宣言することが、国連総会(General Assembly of United Nations)にて採択されましたこと、弊会を代表して心よりお祝い申し上げます。

お聞きしたところによれば、「人工の素材」をテーマとした国際年は「ガラス」が初めてのことであり、ガラス製造を生業としている我々ガラス産業連合会としても、誇らしく思う次第でございます。

ガラスはSDGs時代にも適合するサステナブルな素材であり、その起源は西暦紀元前数千年前の近東に遡ると言われております。我が国においても、正倉院の宝物として、紀元3世紀から7世紀にペルシャで造られたと思われる「白瑠璃碗」や「瑠璃の杯」などが現存し、ガラス工芸の美しさ、すばらしさを現代に伝えています。

古代からガラスは装飾品や器の素材として用いられてきましたが、一方、眼鏡、望遠鏡、顕微鏡、電球用ガラスなどの発明により、文明を急速に進歩させてきました。

近代に入り、ガラスは、建物、生活用品、パッケージ、自動車、家電、通信機器等あらゆる場面で使用され、生活に欠かせない存在となっております。さらにガラスは、高断熱窓、太陽光パネルの基板、風力発電用のタービンブレードなどにも用いられており、持続可能な社会の実現を支える素材でもあります。

このように古代から現代にいたるまで、人々の生活や産業を支えてきたガラスへのご理解を、国民の皆様にも深めて頂くことにより、「国際ガラス年2022」が実りあるものとなり、ガラスの未来に向けての新たなスタートとなって、ガラス界全体が更に発展していくことを祈念いたしております。

「国際ガラス年2022」の成功に向けて、弊会といたしましても、微力ではございますが、関係官庁、学会、芸術界とともに、協力してまいり所存でございます。

末筆となりましたが、この採択に向けてお力を尽くされた貴会関係者の皆様に深く感謝申し上げます。